

第47号

平成24年

10月

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試してください。

山田整骨院

熊本市中央区出水4-25-1

096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

<http://www.jiko-kumamoto.net/>

権田直助翁の日本医学と  
病気に罹らぬ西医学健康生活法 西 勝造  
昭和28年 4月号 月刊西医学

日本医学には現代医学以上のものがある

ただいま権田直助先生の墓前に参拝して参りました。…略…少年時代非常に  
病弱であった私は、漢方医にかかっても、西洋医学にかかっても治りませんし、  
十六歳の時…略…佐々木政吉医学博士より、私の生命は二十歳までしかないと  
宣告されたのであります。…略…この上は神仏に頼るほかないと思った私の父  
は、大山の阿夫利神社の講中の世話をしていた関係上、私をこの大山へ連れて  
来たのであります。そして権田直助翁の長男である年助という人から「私の父  
(直助翁)は漢方の家に生まれたけども、漢方には間違った点がある。日本に  
立派な医学がある」と言って、もらったのが丹波宿彌の書いた「神遺方」をは  
じめ権田直助先生の書かれた「医道百首」…略…であります。…略…ところが  
万葉体で書いてあるため、…略…読むにはいろいろ苦心をしたのであります。  
そしてこの神遺方の日本古来から伝わっている医学を百の歌でもって表わした  
のが、権田直助先生の医学百首であります。…略…日本の大名持少御神(おお  
なむじすくなみかみ)から伝えられた医学を整理され、遂に日本医学を確立さ  
れたのであります。そのことは医道百首を読むことによって、はっきりといた  
します。

くすりしの みち のもと は し かみ む す び      み おやの かみ ぞ はじ め たま え る  
医 道 乃 本 波 之 神 皇 産 霊      御 祖 神 序 始 免 賜 閉 留

おお な むじ すく な み かみ の よろ し く も      さだ め たま い し くすりしの のり  
大 名 持 少 御 神 能 宜 久 毛      定 免 賜 比 之 医 法

日本の医学は、神功皇后より前の大名持少御神の時代から伝わっている医学だ  
というのであります。…略…

そしてこの神遺方にこそ正しき医学は伝わっているというのであります。

あまのほのけつちのみづあじいれいだす　　ことゝのたえぬぞひとのみのつね  
天乃火氣地乃水穀出納須　　事乃絶奴所人体能平常

われわれは空気と食物によって生活しているが、その食べ物が完全に消化されて、滓が完全に二道から排泄されるところに健康がある。出納須はいわゆる銀行や会社で言えば出納であります。銀行会社の帳簿は貸方、借方のバランスが平均して、初めてその銀行会社は正しい経理が行われているといえる。人体においても、食べたものが完全に消化され、その滓が完全に体外に出てこそ、初めてその体は健康体と言えるのです。

つねならぬものなかみにとりまつい　　わざなすものをやまいとはいう  
非常物乃体中爾取纏比　　為禍母乃遠疾病登云

つまり病気は糞便を腸に停滞させるから起こるのだというのであります。略

### 皮膚について

特に権田直助先生は、皮膚というものを至る所において説いております。

けあなはもほのけのすえをいだしつ　　つねにふさがりかごまざらしむ  
毛穴八毛氣能末乎泄之都々　　常尔塞屈末邪良之武

人間の毛孔は・・・略・・・皮膚の穴だけは決して塞いではいけないというのであります。・・・略・・・戦争に負けた国に限って発疹チフスが流行するというのは、満足に入浴も出来ないで皮膚の孔を垢で塞いでしまっているからであります。・・・略・・・

### 唯物論と唯心論を打って一丸としたもの

・・・略・・・徳川時代にはこれもまた漢方は間違っていると言って汗吐下和を唱え、西洋におけるパラケルススという医者と同じ思想を持っていた人に吉益東洞という人があります。・・・略・・・パラケルススと吉益東洞の説を打って一丸としたのが権田直助翁の日本医学だということがはっきり判るのであります。そして権田直助翁の説に現代の物理化学、原子理論、哲学、栄養新論などを加えてつくり上げたのが、すなわち西医学なのであります。以下略

### 解　　説

西医学は西勝造先生が16歳の時医師より死の宣告を受けた時から始まります。そのことが神遺方を始め日本医学につながります。日本医学と漢方とは対立点があります。漢方薬にも当然副作用があること。又、ハリや灸で皮膚を傷つけることに西医学は反対です。西勝造先生は本来は工学博士です。又、外国の文献を原典から学ぶため、ラテン語、英仏独露を学びました。本誌では抜粋しか載せていません。本文はもっと学問的で格調高いです。全文が欲しい方にはコピーを頒布したいと思っています。ご希望の方は連絡ください。